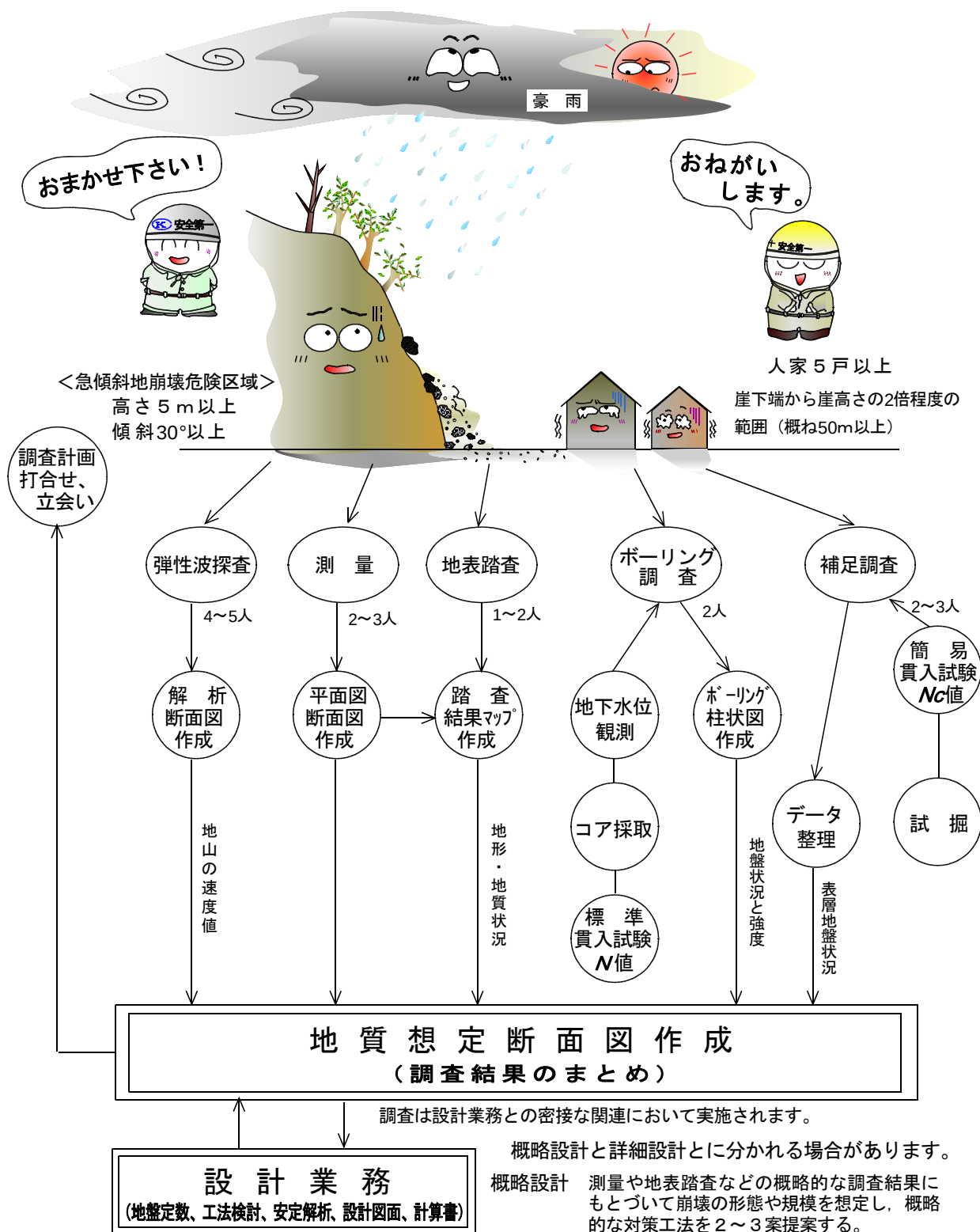


急傾斜地とは

傾斜 30 度以上ある土地で、崩壊や崖くずれのおそれのある区域を一般に急傾斜地と呼びます。このなかで急傾斜地法に指定された区域については、斜面の崩壊を防止するため総合的な急傾斜地対策が実施されます。



斜面防災（急傾斜地崩壊対策調査）

重要性	調査方法	目的	内 容	長 所	必要用具等
				短 所	
◎	地表踏査 人員・・・ 1～2名	現地の地形・地質 状況、崩壊の形態 ・規模の把握 他の調査計画	地形調査 露頭調査 (地質・土質) 既存崩壊調査 資料収集	全体的に表層部の 詳細を把握 深部の状況が把握 できない	ハンマー、カメラ、 クリノメータ等 地形図(S=1:250) 断面図(S=1:100)
◎	ボーリング 調 査 占有面積 3×5m 人員・・・2名	斜面・基礎地盤の 強度（N値）等の 把握 対象区間長等によ って本数を増加し て精度の高い地質 状況を得る	標準貫入試験併用 オールコア ボーリング 代表断面の上、下 各1本（5～10m） 孔内水位測定	対象地山の土層・ 地層を直接確認 地点の調査なので 他調査や本数を増 さないと断面の把 握ができ難い	ロータリー式 ボーリングマシン 揚水ポンプ(水) 足場材一式 水位計
△	簡 易 貫 入 試 験 人員・・・ 2～3名	比較的規小規模の 崩壊対象層の面的 な把握 ボーリング調査の 補完的役割	ウェイトを自由落 下させてコーンを 貫入（Nc値） 面的に把握するた めに数多く実施 1断面5本以上	比較的軽量（質量 5kg）なので移動が 容易 礫質土地盤は不適 調査深度が浅い	土研式 簡易貫入試験器具 一式
○	屈折法 弾性波探査 人員・・・ 4～5名	弾性波速度を測定 して、速度層を解析 ボーリング等他調 査と併せて断面図 を作成	カケヤ、ハンマー、 火薬による打撃に よって起震して縦 波（P波）の伝わ る速度を測定	地山の速度が数値 として確認 他調査と併用する ことで有効 民家に近い火薬に よる起震は困難。 崩壊対象層が厚 い場合、硬質部 の速度測定不可	探査機器 測定用コード 測定断面測量用具 一式 カケヤ、ハンマー 火薬 (申請書類必要)

模式断面図

